

## 監修・編集のことば

私がこの原稿を書いている 2021 年 8 月初旬、日本は新型コロナウイルス感染症の第 5 波と呼ばれる拡大の真っ只中にあります。100 年に一度といわれるこのパンデミックは、感染者の大半が軽症であるがゆえに流行が拡大したとされ、一部の重症化症例が医療への大きな負荷をもたらしています。そして、高齢者や呼吸器疾患と並んで糖尿病や肥満がその重症化要因であると分かり、思わぬ形でこれらの病態がクローズアップされることになりました。コロナ重症化の機序は未だ明らかではありませんが、この新興感染症の出現は、糖尿病・代謝疾患の診療に新たな役割を加えたといえるかも知れません。

さて、今年はいんすりん発見 100 周年にもあたります。この重要なホルモンの同定や治療応用の過程と軌を一にして、内分泌疾患と糖尿病、代謝疾患の診療と研究は、それぞれに著しい発展を遂げ、病態の解明や新たな検査法・治療法の開発が実現されてきました。各分野の学問の深化とその膨大な知見から、近年、内分泌疾患、糖尿病、代謝疾患は、個別に扱われることが少なくありません。日本医師会雑誌の特別号においても、2002 年に「内分泌疾患マニュアル」、2010 年に「糖尿病診療 2010」がそれぞれ独立して刊行されています。

一方、日常診療において、内分泌・代謝・糖尿病は互いに切り離すことのできない領域であり、ひとりの患者へ向き合う医師としては、これらの専門分野をトータルに俯瞰することで得られる学びも大きいと思われます。そのような趣旨に基づき、本企画では、内分泌疾患、糖尿病、代謝疾患に関するスタンダードな内容から最新の知見までを網羅しつつ簡潔にまとめ、より良い診療のためのエッセンスをご紹介しますことを心がけました。読者の皆さんには、common diseases と rare diseases の双方から構成されるこの分野の醍醐味を楽しんで頂くとともに、日々の診療における手引きとなれば幸いです。

最後に、お忙しい中、本書の項目選定や査読に全面的なご協力を賜った編集者の小川佳宏先生、下村伊一郎先生、山内敏正先生、貴重なご助言を賜った日本医師会学術企画委員の皆様、そして全国の執筆者の先生方に心より感謝申し上げます。

2021 年 10 月 28 日

監修・編集者を代表して  
横手幸太郎